



JKS
一般社団法人
日本膝関節学会

No.3

2025年5月15日発行

ニュースレター

理事長挨拶

神戸大学大学院整形外科 黒田 良祐



日本膝関節学会 (The Japanese Knee Society : JKS) が設立されて2年になろうとしています。このように順風満帆のスタートができたのは会員の皆様の温かいご支援があったからこそ、と心より感謝しております。

膝関節外科に関連する研究会・学会にはとても長い歴史があり、多くの偉大な先生方により築きあげられてきました。特に高木憲次先生、渡辺正毅先生を中心として日本で開発された関節鏡の歴史はそのまま世界の膝関節鏡の歴史でもあります。1974年12月に日本膝関節研究会が生まれました。そこから25年間は紆余曲折の道のりがありましたが、2000年設立の日本膝関節学会、2009年設立の日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS) を経て、2023年6月、JKSが設立されました。本学会は膝関節に関わる調査研究及び発表並びに膝関節に関する他団体との連絡・連携をはかり、膝関節に関する学問の進歩普及に貢献し、もって人類の健康と福祉の増進に寄与することを目的としております。

2023年12月に第1回日本膝関節学会が岡崎賢教授 (東京女子医科大学) を会長として、横浜で開催され、2400人近くの参加者があり、成功裏に終わりました。第2回は2024年12月に眞島任史教授 (日本医科大学) を会長として沖縄で開催され、2014人が参加し、第1回同様、盛会

に終わりました。第3回

は2025年12月に私が兵庫県姫路市 (アクリエひめじ) で開催させていただきます。第4回 (2026年) は石島旨章教授 (順天堂大学) を会長としてTAKANAWA GATEWAY Convention Centerで、第5回 (2027年) は斎藤充教授 (東京慈恵会医科大学) を会長としてパシフィコ横浜ノースで開催される予定です。

国内施設を対象としたJKS fellowshipなどが始まり、また海外学会とのexchange fellowshipは既に2つが締結され、3つ目の交渉に入り、着々と国際化も進んでおります。さらに関節鏡技術認定のためのJKS cadaver seminarを2024年より開始いたしました。本年も開催いたしますので是非多くの先生方のご応募をお待ちしております。Official journalであるJournal of Joint Surgery and Research (JJSR) はimpact factorのあるpeer review journalを目指して鋭意努力しております。会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

現在、JKS会員数は約3750名となり、整形外科領域の学会の中でも有数の大きな学会となっております。これからも日本膝関節学会の50年の歴史と伝統を継承し、未来に向けて本学会の発展に尽力いたします。会員に皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

第2回日本膝関節学会 開催報告



会長 眞島 任史
日本医科大学整形外科 主任教授

第2回日本膝関節学会を2024年12月6-7日、沖縄コンベンションセンターで日本医科大学整形外科学教室が主催させていただきました。

2023年新たに日本膝関節学会が発足し、『Reborn』というテーマで第1回JKSが開催されました。そこで、第2回の学会テーマは『Leap Forward (飛躍)』としました。われわれ膝関節外科医がアメリカ、そして世界に羽ばたいていきたいという思いに会長のテイストを加え、スローガンは『Knee surgeons! Let's be Ambitious!!』としました。

現在の人工膝関節の歴史を作ってこられたNew York UniversityのPeter Walker先生にLegend lectureを、日本医科大学 高井信朗名誉教授に特別講演を、そしてジャーナリスト手嶋龍一様に文化講演をしていただきました。どの講演も内容が充実しており、聴講された先生方はとても満足されておりました。さらに、International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA) の会長 Willian Mihalko先生をはじめ、Asia-Pacific Organization of Knee Arthroplasty (APOKA) と共同でEnglish sessionを行う

台湾、タイ、韓国の先生や、ドイツ膝関節学会と韓国膝関節学会からの先生を含め、7か国から総勢17人をお招きしました。

今回は、日本膝関節学会にAPOKAと、以前は別日に行われていたTKAフォーラムと膝関節フォーラムも含まれましたので、非常に豊富なプログラムとなりました。海外からの先生も多数おられましたので1会場は終日英語セッションとし、11の口演会場で日本の先生とともに活発なセッションになりました。ポスター発表、12のシンポジウムおよびディベートセッション、19のランチョンセミナー、6つのイブニングセミナー、4つのハンズオンセミナー、協賛企業展示があり、2日間では勿体無いという意見もいただきました。

近年はオンライン学会が定着してきておりますので、開催前は沖縄まで来ていただけるかと少し不安な面もありましたが、招待の先生を含め参加者2014人、総演題数1094題と大盛況で行うことができました。参加していただいた先生方には感謝しております。学会開催にあたりJKS会員の皆様に改めて感謝します。



特別講演/座長 眞島任史 学会長 日本医科大学



特別講演/演者 高井信朗 東京国際大学



主催校である日本医科大学整形外科学教室 教室員の集合写真



文化講演/座長 眞島任史 学会長 日本医科大学(右)
演者 手嶋龍一 手嶋メディアオフィス(左)



第2回日本膝関節学会 事務局長 大島 康史 日本医科大学整形外科

近年はオンライン学会や一定の都市開催が多いため、前身の学会にならって久しぶりに、という学会長の発案で沖縄コンベンションセンターでの開催としましたが、遠方まで来ていただけるか少し不安でした。また、会場の一部が予約後に改装工事となることが決まり、十分な収容が得られなくなりました。そこで、急遽、日帰りで会場横の体育館の視察に向かいました。体育館は土足禁止であり、巨大な館内にシートを敷く場合は本土から輸送しなければならないという、沖縄

ならではの問題が発覚しましたが、使い捨てスリッパを用意することで、無事借りることができました。会場間の移動では皆さまにご迷惑をお掛けしましたが、結果としては口演数を増やすことができ、海外招待17人、総演題1094題、参加者2014人、と盛況で終わることができました。

プログラム作成や演題審査などのご協力をいただいた評議員の先生方、そして学会発表ならびに参加していただいた先生方、ありがとうございました。



晩餐会／Prof. Peter Walker, New York University (左)、Prof. William Mihalko, University of Tennessee (右)と筆者(中央)



学会風景／一般口演



学会風景／ポスター発表

会 告

第3回 日本膝関節学会

会期：2025年12月5日(金)～6日(土)
会場：アクリエひめじ
会長：黒田 良祐(神戸大学 整形外科科学教室 教授)



テーマ：
『Mastery』
演題募集期間：
4月22日(火)～6月4日(水)

第3回 膝関節



The Meniscus Asian Summit 2025 (同時開催)

会期：2025年12月6日(土)～7日(日)
会場：アクリエひめじ
会長：黒田 良祐(神戸大学 整形外科科学教室 教授)



Meniscus Asia 2025



第4回 日本膝関節学会

会期：2026年12月4日(金)～5日(土)
会場：TAKANAWA GATEWAY Convention Center
会長：石島 旨章(順天堂大学医学部 整形外科科学講座 教授)

第5回 日本膝関節学会

会期：2027年12月3日(金)～4日(土)
会場：パシフィコ横浜ノース全館
会長：斎藤 充(東京慈恵会医科大学 整形外科科学講座 教授)

新役員紹介(新理事)

北海道大学病院 スポーツ医学診療センター／北海道大学大学院医学研究院 スポーツ医科学教室 **近藤 英司**

この度、日本膝関節学会(The Japanese Knee Society: JKS)の理事を拝命いたしました北海道大学病院スポーツ医学診療センターの近藤英司でございます。伝統ある日本膝関節研究会、東京膝関節研究会、日本関節鏡学会および日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)の流れを有し、新たに発足した日本膝関節学会に携わることができ、身の引き締まる思いとともに大変光栄に存じます。浅学菲才の身でございますが、日本膝関節学会が今後益々発展していけるよう微力ながら尽力する所存です。会員の先生方には、今後共々指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



東京慈恵会医科大学 整形外科学講座 **斎藤 充**

この度、日本膝関節学会の理事を拝命し、大変光栄に存じております。財務を担当いたします。本学会はJOSSMとJOSKASから再構成され2023年に新たな船出を始めました。この間、黒田良祐理事長をリーダーとする理事会、評議員会、学会員の皆様の努力により、臨床に長けたSurgeonのみならずSurgeon-scientistが次々と育っていると感じています。学会として若手を育て国際化をはかるための財務管理をしっかりと参ります。個人的には古くは再建靭帯のligamentizationの研究をして参りましたが、現在は避けては通れない高齢化にともなう術後の長期成績の向上に寄与する基礎研究・臨床研究の波をおこしていきたいと思っています。多様な膝専門医が個々の長所を伸ばし本学会が更なる高みに登ることを常に念頭に任を全うしていきたいと思っています。会員の皆様にはご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



帝京大学整形外科学講座／帝京大学スポーツ医科学センター **中川 匠**

このたび、新理事就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。
学生時代、アメリカンフットボールのプレー中に右膝の複合靭帯損傷を受傷し、母校にて十字靭帯再建術を受けた経験から膝関節外科医を志しました。その後、大学院で基礎研究に取り組み、膝関節外科をサブスペシャリティとして研鑽するようになりました。本学会の前身であるJOSKASにおいても教育研修委員や関節鏡技術認定制度委員として活動し、新学会への移行後も引き続き委員会業務に携わってまいりました。
今後は、新生日本膝関節学会のさらなる発展のために尽力し、次世代へとバトンタッチできるよう努めていく所存です。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



受賞者コメント

JKS 誌 優秀論文賞

JR東京総合病院 整形外科 **小岩 空**

「膝前十字靭帯損傷の新しい予測因子としてのMBA (meniscal bone angle)」

この度、第2回日本膝関節学会におきまして、優秀論文賞という名誉ある賞を頂戴致しました。この論文は私が2023年4月にJR東京総合病院に赴任してから臨床研究として行って参りました、ACL損傷の新たな危険因子としてのmeniscal bone angle(MBA)についての論文です。ACL損傷・再断裂の危険因子として報告されている骨形態学的指標に加え、新たな指標として、また更なる視点を広げることができると考え、この研究を行って参りました。まだ途中の段階ではありますが、行ってきた研究が形となってこのような名誉ある賞を頂くことができ、全員懇親会場で黒田先生から表彰して頂いた時には感無量でした。

大変貴重な賞を頂きまして、黒田先生をはじめJKS理事・評議員の先生方、また武富先生をはじめ東京大学整形外科膝スポーツグループの先生方、そして直接のご指導を賜りました中山修一先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。



JJSR Best Paper Award

弘前大学大学院医学研究科 整形外科学講座 **佐々木 英嗣**

「Prognostic power of criteria for symptomatic early knee osteoarthritis from a 2-year longitudinal observation of the Iwaki cohort study」

この度は第1回JJSR Best Paper Awardに選出いただき誠にありがとうございました。名誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。本論文では若木コホートでの2年間の縦断疫学研究から早期変形性膝関節症(OA)の国際判定基準によるOA発症検出力を明らかにし、さらにOA発症リスクとして症状のある半月損傷は放置すべきではないという結論が得られております。早期OAの自然経過への理解と予防的介入を行う上で重要なメッセージがえられたと考えております。この場をお借りして、ご指導いただいた石橋恭之教授、疫学調査へのご協力をいただいた多くの関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



JKS-Meniscus Traveling Fellowship 報告



大阪大学 辻井 聡

JKS-Meniscus Fellowship (前半) として、2025年1月に2週間、ヨーロッパ(フランス、ベルギー、ルクセンブルク、ドイツ)での研修をさせて頂きました。

日本人1人、さらに初めての海外研修という不安と緊張の中、パリに向かいましたが、各国のフェローがとてもフレンドリーで情熱あふれる先生達ですぐに意気投合し、寝る時間以外を全て共に過ごす濃密で充実した2週間でした。

半月板のallograft移植、1日12件の多種多様な手術、学会等で見聞きしていた手技等を見学できました。ヨーロッパの文化や流行りを知ることができ、各先生の理論に基づいた手技の実践、



写真1 各国のフェロー、左からChung(韓国)、辻井、Nicola(イタリア)、Jerome(ベルギー)@アントワープ

そして国を跨いだエビデンス構築、論文による公表、と一連の流れを世代継続的に繋いでいる風潮に感銘を受けました。

最後のベルリンでは、カダバーセミナーでのトレーニングと、半月板について熱くディスカッションするMeniscus congressに参加し、発表機会も頂きました。

このような素晴らしい機会を与えて頂きまして、国際委員の先生方、学会事務局の方々、サポート頂いた阪大の先生方に深く感謝申し上げます。後半のFellowshipにおいても、引き続き多くの学びを得られるよう努めて参ります。



写真2 Beaufils先生とPujol先生を囲んで。会議室名が「MASAKI WATANABE」でした!



写真3 Romain Seil先生とチームスタッフとのディスカッション



写真4 Rene Verdonk先生を囲んで@Meniscus congress

学会誌のご案内

日本膝関節学会誌 (JKS 誌)



JKSでは年3回和文雑誌を発行しており、メディカルオンラインでご覧いただけます。1、2号には発表論文、3号には原著論文を掲載しています。

※メディカルオンラインの購読者IDとPWは、JKSホームページのマイページ内お知らせに掲載しています。

▶アクセスはこちらから



Journal of Joint Surgery and Research (JJSR)



JJSRは日本膝関節学会、日本股関節学会、日本人工関節学会の公式英文学術雑誌です。

股関節、膝関節、足関節、肩関節、肘関節等の関節分野における臨床研究・基礎研究に関する質の高い研究論文を発表する英文のオープンアクセスジャーナルです。

▶アクセスはこちらから



初期変形性膝関節症に対する介入 —半月板?アラインメント?biology?

東京科学大学大学院 運動器外科学分野 教授 古賀 英之



近年、膝関節機能における半月板の役割の重要性が再認識されるようになってきている。私自身、スポーツ整形外科に興味を持つようになってから、膝スポーツ外傷・障害、特に前十字靭帯損傷に対する予防と治療を中心に臨床、研究を行ってきたが、特に前十字靭帯再建術後の成績が半月板機能の温存に大きく左右されることを痛感するようになり、興味の対象が大きく半月板にシフトしている。一方で変形性膝関節症(OA)の予防と治療を考える際に、半月板機能の低下がその発症に由来と考えられていたよりもかなり大きく関与していることがわかってきている。しかしながらOAの発症を来す中高年においては半月板自体が変性しており、変性半月板損傷に対する外科的治療のみでOAの発症や進行を食い止めることには限界がある。近年は様々な再生医療が臨床応用されており、また基礎研究段階の薬物治療や遺伝子治療などにもOA治療の未来が託されているが、外科医としてはやはりメカニカルな要素、すなわちアラインメントの矯正が膝関節の環境を変えうる現時点で最も有効な手段と考える。そこで現時点で私が考える、整形外科医としてのOA予防の可能性について述べてみたい。

半月板は膝関節の荷重分散や安定性に大きく寄与しており、半月板損傷および半月板切除は半月板の機能を低下させOAを惹起する。半月板機能の温存のためには半月板損傷の治療における第一選択は縫合術が推奨され、本邦においても半月板損傷に対する術式の割合は縫合術が徐々に増加している。また中高年の明らかな外傷を伴わない変性半月板損傷に対しては、半月板部分切除術を第一選択とすべきではないこと、また部分切除術を行う際には十分に病態を検討し、保存療法に抵抗する症例のみに適応すべきであり、半月板部分切除術は保存療法と比較して有意にOAを進行させ、人工関節置換術に至る確率が高いことが報告されている。一方、近年では変性を基盤とした半月板損傷に対しても、手術方法の進歩や治療法の工夫により縫合術の適応が拡大している。

OA進行に関連して特に注目を集める損傷形態として後根断裂が挙げられる。内側半月板後根断裂(MMPRT)は中高年に多く発生する断裂形態であるが、OAの進行や大腿骨内側顆特発性骨壊死との強い関連が示唆され、その外科的修復の必要性が多く議論されている。同様に、近年注目されている新たな病態の概念として半月板逸脱が挙げられる。半月板逸脱はhoop機能の破綻を示唆し、OAの進行と強く関連するものの、解剖学的修復が可能な断裂形態を除いてはこれまで有効な治療法がなかった。我々はセントラリゼーション法という逸脱を整復させる手技を考案し、比較的良好な短期成績を報告している。一方、下肢アラインメント不良例における変性半月板損傷においては、半月板損傷に対する治療のみでは臨床成績の改善を得ることが難しいこともわかってきている。

近年、下肢アラインメント不良を伴う内反OAに対しては

膝周囲骨切り術(AKO)が多く行われるようになってきており、その代表的な術式が高位脛骨骨切り術(HTO)である。従来HTOは単独で行われることがほとんどであり、その際良好な臨床成績を得るためには外反位への矯正が必要であった。しかしながら10年で10%が人工関節置換術へ移行してしまうことに加え、外反位への矯正は軟骨へのシェアストレスの増大や骨癒合の遅延、コスメティックな問題が生じる。我々の検討でも外反位になるほどスポーツパフォーマンスが低下することが示唆されている。そこで我々はこれらの問題点解決のため、AKOは中間位への矯正にとどめ、その分半月板機能を可能な限り修復・温存することにより機能的評価、スポーツパフォーマンスおよび長期予後の改善を試みている。

このように膝周囲骨切り術により病変の存在するコンパートメントの負荷を減じることにより、修復半月板を保護することは関節温存の有効な治療戦略となりうる。特にMMPRTにおいては、内反アラインメントを伴うMMPRTに対するMMPRT修復とAKOの併用により良好な臨床成績および断裂部の治癒、OA進行の抑制効果が報告されている。我々はさらに逸脱半月板に対する逸脱整復の補強としてセントラリゼーション法を併用することにより、さらに良好な結果を報告している。また、今後他の縫合法との併用や、外反アラインメント症例に対する外側半月板修復と遠位大腿骨骨切り術の併用など、様々な治療戦略が期待できる。

このようなコンセプトをOA予防の観点から考える際には、アラインメント不良を伴う若年半月板損傷に対する膝周囲骨切り術の併用ということになるだろう。しかしながらその適応には現時点では十分な注意が必要である。OA発症のリスクファクターがかなり高い感度、特異度をもって同定されない限り、このような予防的手術は時としてoversurgeryとなりうるからである。また患者の立場を考慮しても、現時点では自由診療である、再生医療をうたっている様々な治療法に大金を払っても多くの患者が希望するということは、それだけ手術治療に対する抵抗が大きいことが理解できる。ただ私見としては、これらのbiological treatmentは、メカニカルな要素を凌駕するほどのとてつもなく素晴らしい治療法が開発されたときにはじめて単独で行われべきだと考える。一方で初期OAにおける半月板はすでに変性していることが多く、手術的加療ではこの変性そのものを治すことは不可能である。これらの新規治療法の有効性が高いエビデンスをもって証明され、保険収載されれば、手術的治療に対するbiological augmentationとして用いることが可能となるだろう。

OA予防に対する治療戦略はまだまだ道半ばであるといえよう。

編集後記

日本膝関節学会のニュースレター第3号を今回発刊させていただき運びとなりました。本号ではまず黒田理事長より設立3年目となった本学会の取り組みをご紹介いただき、さらに今後の学会の開催予定について御披露頂きました。また、日本医大整形外科の眞島会長と大島先生から、第2回学術集会の概要と学会運営の裏話をご報告いただきました。JOSKAS以来の久しぶりの沖縄での開催となった本会の熱気を思い起こされる充実した内容で、会員の皆さまにも楽しんでいただけたらと思います。また、古賀教授から半月板、アライメント、biologyから見る膝OA予防治療の現状と可能性について詳細に解説頂きました。その他、各種学会賞受賞報告、フェローシップ報告などの内容が紙面を埋めて

おります。ニュースレター広報委員長をお務めされた井上先生のご退任に伴い、私が委員長を仰せつかりました。昨年度からSNS担当ワーキンググループを立ち上げ、Instagram、Facebook、Xにて日本膝関節学会の活動内容をアップしておりますので、会員の先生方もぜひフォローしていただけたら幸いです。



中山 寛
兵庫医科大学整形外科学教室

公式SNS開設のお知らせ



このたび、Instagram、X (旧Twitter)、FacebookにてJKSのオフィシャルアカウントを開設いたしました！

学術集会や各種募集などのお知らせのほか、フェローシップ報告や学会参加報告などのコンテンツも随時更新しておりますので、ぜひお気軽にいいね&フォローよろしくお願いいたします！

JKSニュースレターNo.3 2025年5月15日発行
編集：日本膝関節学会 広報・ニュースレター委員会
中村憲正(担当理事)、中山寛(委員長)
赤木龍一郎、萩内隆司、落合聡司、熊橋伸之、佐藤卓、
前達雄、松下雄彦

発行：一般社団法人 日本膝関節学会
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング
株式会社コングレ内
TEL 03-3510-3746 FAX 03-3510-3748 E-mail info@knees.or.jp
URL <https://www.knees.or.jp/>